

第2弾 まなキキ オンライン講読会 スペシャル

『科学哲学への招待』

野家 啓一 著 ちくま学芸文庫 (2015年)

新型コロナウイルスの危機からの再起が遅れ、“愁い”と“畏れ”に覆われつつある時代。今こそ必要なのは、周りに左右されず「自分で考える力」を養う学問・科学なのではないか。私たちにとっての学問の、科学の重要性と必要性を、もう一度考え、それを身につけるための好書を購読します。

—毎週火曜日に定期開催している講読会ですが、ちょっと時間を長めに拡大版として、総括的に振り返り皆さんと議論するスペシャル回を設けます。

第5講 2020年10月27日 討議 大学の“危機”を考える

17:30-18:30 テキスト6章講読

18:30-19:30 パネルディスカッション

—第6章 「科学の制度化」から—

パネリスト 服部 哲 さん (駒澤大学) 柴田 邦臣 さん (津田塾大学)

「科学哲学への招待」第6章は、「科学の制度化」として、大学が科学・学問の場として成立してきた過程をテーマにしています。その時代から約800年、2020年のCOVID-19 Crisisは、大学のあり方にも大きな影響を与え、その社会的価値、ひいては存立基盤を問うところまで来ています。講読会後半で、情報教育にお詳しい服部先生をお招きし、大学の“危機”と役割について、皆さんと一緒に考えたいと思います。

第12講 2020年12月22日 討議 “危機”下の学問—2020年を振り返る

17:30-18:30 テキスト補章講読

18:30-19:30 パネルディスカッション

補章「3・11以後の科学技術と人間」から

パネリスト 松本 早野香 さん (大妻女子大学) 柴田 邦臣 さん (津田塾大学)

まなキキ講読会、2020年の最終回は、「クリスマス・スペシャル版」として「科学哲学への招待」補講：「3.11以後の科学技術と人間」を購読します。科学技術と現代社会を論じる本章の購読を入りに、後半では、“危機の時代”の情報技術と、学問・科学のあり方をディスカッションしたいと思います。パネリストとして、東日本大震災における災害情報支援を専門とする松本先生をお迎えし、Learning Crisis研代表の柴田をあわせ、皆さんと議論していきます。

申し込みはこちら！

右記QRコード、あるいは下記メールアドレス宛にお申込みください。

inclusive_events@tsuda.ac.jp



講読会申込



まなキキ

お申込みいただき次第、開催当日までにZOOMのURLや開催詳細をお知らせ差し上げます。 <https://learningcrisis.net/>